

7日目 7月20日

会 場： 県立浜山球場

第2試合	～3回戦～																			
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E		
邇 摩	0	0	1	0	0	3	0	0	0							4	7	0		
益田翔陽	2	1	0	0	0	0	1	1	X							5	11	0		
(投手-捕手)																				
・ (邇)	品川 - 白石																			
・ (益)	吉村 - 石橋																			
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)							
・ (邇)	白石、松尾																			
・ (益)	水津												吉村							
(審判) [球審] 上手	[一塁] 藤本邦				[二塁] 波多				[三塁] 仁科大											
(チーム成績)																				
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守	備	失	暴	ボ	逸	打	妨
(邇)	41	7	4	2	0	0	11	7	1	0	10	0			0	0	0	0	0	0
(益)	38	11	5	1	0	1	6	4	0	2	9	0			0	1	0	0	0	0

「益田翔陽、3試合連続1点差を制す！」

大会7日目浜山会場の第2試合は益田翔陽と邇摩の対戦となった。益田翔陽が延長戦含む2試合の接戦を制し勝ち上がってきた。邇摩は初戦の2回戦が不戦勝だった為、今大会最後の登場となった。試合は益田翔陽の吉村、邇摩の品川の先発で始まった。

1回裏、益田翔陽は2死から連打で2・3塁とし5番西田昂のセンターへの2点適時打で先制する。2回裏にも、押し出し四球で追加点を挙げ3点リードし試合の主導権を握った。一方の邇摩は3回表、死球と犠打で2死2塁とし、3番白石の右越の適時2塁打で1点を返す。更に6回表、2死満塁とし、押し出し四球と2番今岡の三遊間を破る2点適時打で逆転に成功する。なおも2死1・2塁から3番神在が安打を放つが、右翼手の好返球により本塁で刺殺され追加点は阻止された。

すると、益田翔陽が7回裏、エース吉村の意地の本塁打で同点に追いつくと、8回裏に四球と盗塁で2死2塁とし、1番石橋のセンターへの適時打で1点を挙げ逆転し、これが決勝点となった。益田翔陽は1回戦からの3試合を全て1点差で勝ち上がっており、この試合も接戦の強さが光った。

